

熊本県の農林水産業の概要

特徴・取組

熊本県は、世界最大級のカルデラを有する阿蘇や、美しい島々からなる天草に代表される素晴らしい自然にあふれており、阿蘇山、九州山地に源を発する菊池川（きくちがわ）、球磨川（くまがわ）などの一級河川や豊富な地下水など、水資源にも恵まれている。

また、三方を山に囲まれているため、天草地方を除いて、全体的に内陸性気候であり、年平均気温は熊本市で17℃前後、阿蘇地方で13℃前後、年間降水量は平地で約2,000mm、山地で約3,000mmとなっている。

さらに、日本最大の干潟を有する有明海、内湾で東シナ海に湾口を開く八代海、対馬暖流に面する天草灘の3海域を有している。

産業構造は、県内総生産（令和3年度：6兆4,173億円）を産業別にみると、第1次産業が1,712億円（2.7%）、第2次産業が1兆8,402億円（28.7%）、第3次産業が4兆1,567億円（67.6%）となっている。

豊かな自然の恵みを背景に、農業では、米・野菜・果樹・畜産をはじめ多彩な農畜産物が、林業では、すぎやひのきの木材や、しいたけなどの特用林産物が生産されている。水産業では、3海域の特徴を活かした養殖業や、漁船漁業が盛んに行われている。

熊本県では、「食のみやこ熊本県」の創造に向けて、農林畜水産物の生産・加工から販売に至るまでの過程を磨き上げるとともに、豊かな食文化を活かした高付加価値化等を図り、「稼げる農林畜水産業」の実現に取り組んでいる。

また、その要となる担い手の確保・育成を図るため、就業希望者への相談対応から就業・定着まで段階に応じた切れ目ない支援体制を整備。特に、親元就業をはじめとした新規就業者の確保・育成を推進している。

農業就業人口は、全国と同様に高齢化等により減少する中、新たな担い手となる新規就農者の就農形態は、親元就農、新規参入や農業法人への雇用就農など多様化している。

これらに対応するため、県では、第一線で活躍する農業経営者・学識経験者らが講師となり、次世代の農業を担う農業者を育成するための「くまもと農業経営塾」や、最新の農業知識や農業技術等をテーマにした学びの場である「くまもと農業アカデミー」を開催し、担い手の育成を図っている。

主な農林水産物

米

西日本有数の米生産県であり、平成30年本格デビューの「くまさんの輝き」「森のくまさん」などの特色ある米を生産。

（収穫量全国15位）



い（い草）

県オリジナル品種「涼風」等を育成。平成28年2月に「くまもと県産い草」、「くまもと県産い草畳表」はGI登録。（収穫量全国1位）



すいか

促成栽培により、全国に先駆けて出荷。熊本、鹿本菊池、上益城が主な産地。

（収穫量全国1位）



トマト

八代・玉名の冬春トマト阿蘇・上益城の夏秋トマトなど、地勢や気象条件を活かして周年生産。

（収穫量全国1位）



みかん

海岸島しょ地域の気候を活かし、県独自品種を含めたりレー出荷を実施。

（収穫量全国4位）



不知火類（登録商標：デコポン）

皮がむきやすく食味が良い柑橘類。県独自品種「肥の豊（ひのゆたか）」の導入により品質向上。

（収穫量全国1位）



肉用牛

黒毛和種、褐毛和種（あか牛）、交雑種など多彩な肉用牛を生産。平成30年9月には「くまもとあか牛」がGIに登録。

（飼養頭数全国4位）



宿根かすみそう

菊池、宇城、天草で栽培が盛ん。全国有数の生産量を誇り、冠婚葬祭等のニーズに対応。

（出荷量全国1位）



木材（すぎ・ひのき）

育苗技術を活かして県下一円で植栽。

（すぎ：素材生産量全国5位）（ひのき：素材生産量全国1位）



まだい・くるまえび（養殖）

温暖な気候を活かした海面養殖業が盛ん。

（まだい：収穫量全国2位）（くるまえび：収穫量全国3位）



熊本県内の各地域における農林水産物

県央地域

【農産物】トマト、すいか、メロン、なす、みかん、不知火類（登録商標：デコポン）、日本なし、くり、かき、宿根かすみそう、洋ラン、トルコギキョウ、茶

【林産物】乾しいたけ、たけのこ、竹材

【水産物】のり、あさり、くるまえび

天草地域

【農産物】不知火類（登録商標：デコポン）、河内晩柑、宿根かすみそう、トルコギキョウ、キク

【林産物】きくらげ類

【水産物】まだい、しまあじ、くるまえび、ぶり、ひらめ、このしろ、ふぐ類

県北地域

【農産物】トマト、いちご、すいか、なす、みかん、日本なし、くり、キンカン、宿根かすみそう、トルコギキョウ、キク、茶

【林産物】乾しいたけ、たけのこ、竹材、竹炭、竹酢液

【水産物】のり、あさり、くるまえび

県南地域

【農産物】トマト、いちご、メロン、なす、ブロッコリー、カリフラワー、しょうが、不知火類（登録商標：デコポン）、甘夏みかん、晩白柚（柑橘類）、日本なし、くり、トルコギキョウ、キク、畳表（い草）、茶

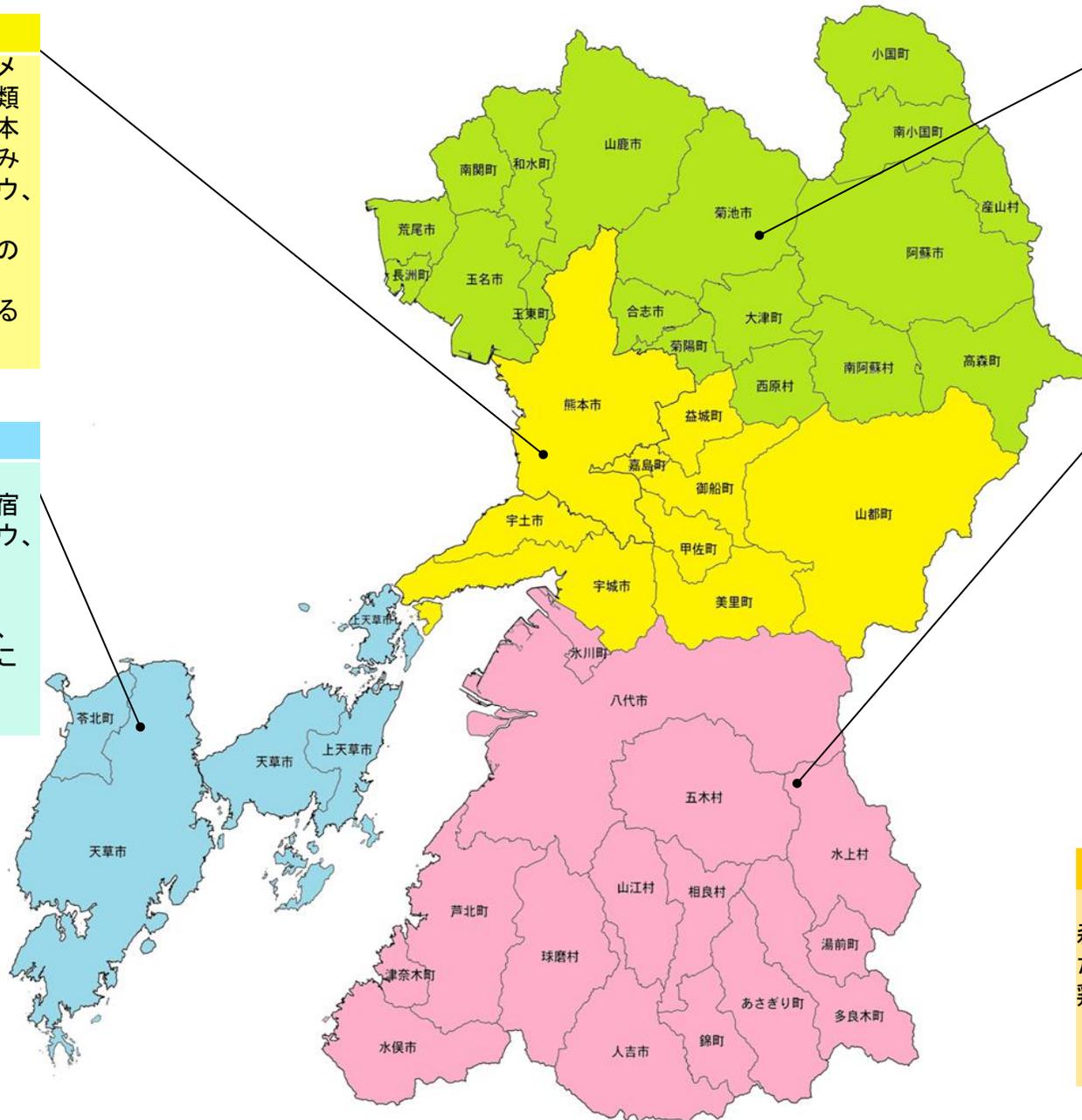
【林産物】乾しいたけ、きくらげ類、木炭、竹炭

【水産物】たちうお、このしろ

県全域

【農畜産物】水稲（くまさんの輝き、森のくまさん、ヒノヒカリ等）、葉たばこ、牛乳、牛肉、豚肉、鶏肉、鶏卵、馬肉、蜂蜜

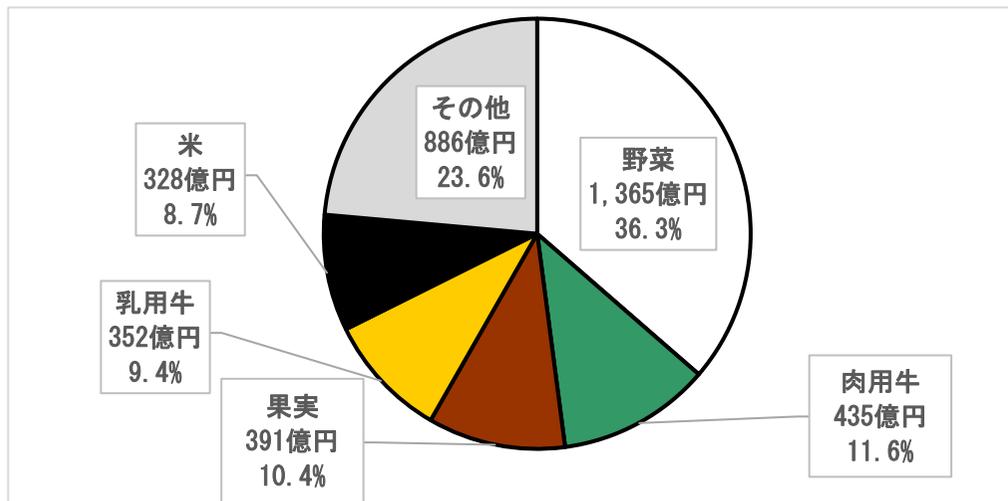
【林産物】すぎ、ひのき



熊本県の農業（1）

- ・農業産出額は3,757億円で全国5位。うち米が328億円（8.7%）、野菜が1,365億円（36.3%）、畜産が1,371億円（36.5%）。
- ・農畜産物の生産状況は、トマト、すいか、宿根かすみそう、い（い草）、シラヌヒが全国1位、なす、メロンが2位。

農業産出額の概略



農畜産物の生産状況

区分	年次	熊本県	全国	全国順位
水稻	収穫量	R6 153,300 t	7,345,000 t	15
トマト	収穫量	R5 132,600 t	681,400 t	1
なす	収穫量	R5 36,300 t	288,800 t	2
メロン	収穫量	R5 24,100 t	145,200 t	2
すいか	収穫量	R5 46,500 t	303,700 t	1
みかん	収穫量	R5 80,600 t	681,600 t	4
宿根かすみそう	出荷量	R5 18,600 千本	47,200 千本	1
肉用牛	飼養頭数	R6 134,000 頭	2,672,000 頭	4
い（い草）	収穫量	R6 4,980 t	4,980 t	1
シラヌヒ	収穫量	R4 9,272 t	34,994 t	1

出典：「作物統計」、「野菜生産出荷統計」、「果樹生産出荷統計」、「花き生産出荷統計」、「畜産統計」、「特定作物統計」、「特産果樹生産動態等調査」

農業産出額のデータ

区分	熊本県の農業産出額	全国の農業総産出額	全国順位
農業産出額	3,757 億円 (100.0)	94,952 億円 (100.0)	5
米	328 億円 (8.7)	15,193 億円 (16.0)	16
麦類	8 億円	678 億円	11 *
雑穀	1 億円	77 億円	16
豆類	6 億円	572 億円	16
いも類	61 億円	2,301 億円	8
野菜	1,365 億円 (36.3)	23,243 億円 (24.5)	3
果実	391 億円 (10.4)	9,590 億円 (10.1)	7
花き	117 億円	3,522 億円	9
工芸農作物	76 億円	1,467 億円	5
その他作物	17 億円	585 億円	10 *
畜産	1,371 億円 (36.5)	37,212 億円 (39.2)	6
肉用牛	435 億円	7,696 億円	4
乳用牛	352 億円	9,249 億円	3
生乳	317 億円	8,310 億円	3
豚	265 億円	7,194 億円	11
鶏	285 億円	12,033 億円	18
鶏卵	146 億円	7,413 億円	21
ブロイラー	112 億円	4,471 億円	6 *
その他畜産物	34 億円	1,041 億円	4
加工農産物	18 億円	513 億円	6

出典：「令和5年農業総産出額及び生産農業所得(全国)」、「令和5年農業産出額及び生産農業所得(都道府県別)」
注：() は農業総産出額及び農業産出額を100%とした割合である。

都道府県の農業、林業、漁業の表の見方

・令和7年3月31日時点における最新の統計等の公表データを使用

・表中に使用した記号は次のとおり

「O」：単位に満たないもの(例:0.4t→0t)

「-」：事実のないもの

「…」：調査を欠くもの

「x」：秘密を保護するため統計数値を公表しないもの。

「*」：秘密を保護するため統計数値を公表していない都道府県を除いた順位

熊 本 県 の 農 業 (2)

- ・耕地面積は10万3,300haで全国14位。うち田が6万3,800ha、畑が3万9,500ha。
- ・農業経営体数は3万3,952経営体で全国9位。うち法人経営体が1,077経営体で5位。
- ・市町村認定及び都道府県認定経営体数は9,913経営体で全国3位。うち法人数が1,119法人で4位。
- ・農業生産関連事業は、農産物直売所の年間販売(売上)金額が438億円で全国4位、事業体数は560事業体で16位。

耕地面積

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
耕地面積	103,300 ha	4,272,000 ha	14
田	63,800 ha	2,319,000 ha	13
畑	39,500 ha	1,952,000 ha	9
普通畑	22,600 ha	1,118,000 ha	14
樹園地	12,300 ha	248,600 ha	6
牧草地	4,560 ha	585,900 ha	6
参考) 総土地面積	7,409.19 km ²	377,975.68 km ²	15

出典:「令和6年耕地面積(7月15日現在)」、「令和7年全国都道府県市区町村別面積調(1月1日時点)」(国土交通省国土地理院)

荒廃農地面積

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
荒廃農地面積	12,069 ha	256,676 ha	6

出典:「令和5年度の荒廃農地面積(令和6年3月31日現在)」

農業経営体数、総農家数及び集落営農数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
農業経営体数	33,952 経営体	1,075,705 経営体	9
法人経営体	1,077 経営体	30,707 経営体	5
総農家数	47,879 戸	1,747,079 戸	13
販売農家	32,529 戸	1,027,892 戸	8
参考) 世帯総数	719,154 世帯	55,830,154 世帯	24
集落営農数	385 集落営農	13,998 集落営農	16

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)、「令和6年集落営農実態調査結果(令和6年2月1日現在)」

担い手への農地の集積状況

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
担い手への集積面積	56,669 ha	2,593,345 ha	10
集積率	54.3 %	60.4 %	16

出典:「農地中間管理機構の実績等に関する資料(令和5年度版)」

基幹的農業従事者数及び認定農業者数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
基幹的農業従事者数	51,827 人	1,363,038 人	4
男	30,444 人	822,144 人	4
女	21,383 人	540,894 人	5
65歳以上	31,780 人	948,621 人	7
基幹的農業従事者数に対する65歳以上割合	61.3 %	69.6 %	-
国、市町村認定及び都道府県認定経営体数	9,913 経営体	216,784 経営体	3
法人数	1,119 法人	29,128 法人	4
参考) 人口総数	1,738,301 人	126,146,099 人	23

出典:「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」、「認定農業者の認定状況(令和6年3月末現在)」、「令和2年国勢調査」(総務省統計局)

農業生産関連事業の年間販売(売上)金額及び事業体数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位	
農産加工	総額	43,256 百万円	999,786 百万円	6
	事業体数	640 事業体	27,760 事業体	18
農産物直売所	総額	43,753 百万円	1,126,420 百万円	4
	事業体数	560 事業体	21,240 事業体	16
観光農園	総額	379 百万円	37,281 百万円	27
	経営体数	50 経営体	5,050 経営体	26
農家民宿	総額	47 百万円	5,352 百万円	24 *
	経営体数	20 経営体	1,140 経営体	14
農家レストラン	総額	1,468 百万円	39,434 百万円	6 *
	事業体数	40 事業体	1,360 事業体	8

出典:「令和5年度6次産業化総合調査結果」

熊 本 県 の 林 業

- ・ 林業産出額は164.4億円で全国7位。うち木材生産が144.1億円、栽培きのご類生産が19.2億円。
- ・ 林産物の生産状況は、素材生産量が全国7位、ひのきが全国1位、生きくらげ類が2位、黒炭、乾しいたけが3位、たけのこが4位。

林業産出額

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
林業産出額	164.4 億円	5,562.5 億円	7
木材生産	144.1 億円	3,257.0 億円	4
栽培きのご類生産	19.2 億円	2,199.2 億円	24

出典：「令和5年林業産出額」

林野面積

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
林野面積	466,250 ha	24,770,201 ha	18
国有林	62,968 ha	7,153,338 ha	17
民有林	403,282 ha	17,616,863 ha	18
人工林面積	278,846 ha	10,133,111 ha	9

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林業経営体数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
林業経営体数	1,255 経営体	34,001 経営体	7
法人経営体	110 経営体	4,093 経営体	12

出典：「2020年農林業センサス(令和2年2月1日現在)」

林産物の生産状況

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
素材生産量	922 千m ³	20,647 千m ³	7
針葉樹	895 千m ³	18,926 千m ³	6 *
ひのき	280 千m ³	3,180 千m ³	1 *
すぎ	615 千m ³	11,917 千m ³	5
広葉樹	27 千m ³	1,721 千m ³	14 *
乾しいたけ	生産量 186 t	1,816 t	3
生きくらげ類	生産量 112 t	1,680 t	2 *
たけのこ	生産量 1,578 t	16,528 t	4 *
黒炭	生産量 382 t	3,416 t	3 *

出典：「令和5年木材統計」、「令和5年特用林産基礎資料」

製材工場数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
製材工場数	127 工場	3,749 工場	7
製材用素材の入荷があった工場数	125 工場	3,722 工場	7
国産材のみ	122 工場	3,116 工場	5
国産材と輸入材	3 工場	511 工場	35

出典：「令和5年木材統計」

熊 本 県 の 漁 業

- ・ 漁業産出額のうち、海面漁業・養殖業産出額は436億円で全国11位。
- ・ 水産物の生産状況は、海面漁業のこのしろが全国2位、たちうおが3位、海面養殖業のまだいが2位、くるまえびが3位。
- ・ 漁業生産関連事業は、漁家レストランの年間販売（売上）金額が4億円で全国12位、事業体数は10事業体で8位。

漁業産出額

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業産出額	436 億円	15,265 億円	11
海 面 漁 業	55 億円	9,534 億円	33
海 面 養 殖 業	381 億円	5,731 億円	5

出典：「令和5年漁業産出額」

漁業経営体数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
海面漁業経営体数	2,166 経営体	65,662 経営体	10
内水面漁業経営体数	65 経営体	4,076 経営体	21

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁業就業者数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
海面漁業就業者数	4,121 人	121,389 人	9
男	3,299 人	109,757 人	12
女	822 人	11,632 人	5

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

漁船隻数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
漁船隻数	4,006 隻	109,283 隻	8
動力漁船	2,262 隻	58,906 隻	9

出典：「2023年漁業センサス(令和5年11月1日現在)」

水産物の生産状況

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位
海面漁業・養殖業生産量	60,242 t	3,777,921 t	17 *
海面漁業漁獲量	12,378 t	2,926,411 t	32
このしろ	364 t	4,099 t	2 *
たちうお	465 t	5,420 t	3
海面養殖業収穫量	47,864 t	851,509 t	7 *
まだい	9,386 t	67,257 t	2
くるまえび	246 t	1,332 t	3 *
内水面漁業・養殖業生産量	355 t	51,908 t	18 *
内水面漁業漁獲量	13 t	21,567 t	29 *
あゆ	13 t	1,697 t	14 *
内水面養殖業収穫量	342 t	30,341 t	12 *
その他のます類	83 t	2,067 t	6 *

出典：「令和5年漁業・養殖業生産統計」

漁業生産関連事業の年間販売（売上）金額及び事業体数

区 分	熊 本 県	全 国	全国順位	
水産加工	総額	3,400 百万円	179,159 百万円	13 *
	事業体数	50 事業体	1,220 事業体	5
水産物直売所	総額	402 百万円	34,988 百万円	25 *
	事業体数	20 事業体	810 事業体	11
漁家民宿	総額	42 百万円	5,389 百万円	24 *
	経営体数	10 経営体	540 経営体	13
漁家レストラン	総額	382 百万円	13,249 百万円	12 *
	事業体数	10 事業体	380 事業体	8

出典：「令和5年度6次産業化総合調査結果」

熊本県の農林水産業の話題等

「食のみやこ熊本県」の創造に向けた動き

令和6年4月に就任した木村知事のもと策定した「くまもと新時代共創基本方針」で、「食のみやこ熊本県」の創造を重要政策に掲げ、豊かな食文化を活かしながら、担い手確保・育成や高付加価値化による稼げる農林畜水産業の実践等に取り組んでいる。

令和6年10月に、農林水産部と商工労働部の共管による「食のみやこ推進局」を新設。県産農林畜水産物の高付加価値化と販路拡大等を強力に推進していくため、「『食のみやこ熊本県』創造推進ビジョン」の策定を進めているところ。

令和7年2月に有識者会議を開催し、「食」に関する熊本の課題や今後目指すべき方向性について意見交換を実施。当意見を踏まえ、令和7年6月頃の策定を目指して取り組んでいる。



「食のみやこ熊本県」創造推進ビジョン
有識者会議

半導体関連企業の進出に伴う熊本県農業への影響と対応

農業振興と企業進出の両立を図るため、令和4年12月に庁内関係各課で構成する「半導体拠点推進調整会議」を設置。農振除外を伴う開発案件を一元的に受け付ける総合相談窓口を設けている。

令和5年6月には「農林水産部PT営農継続支援チーム」を設置。農地の貸借契約の解除等の影響を受けた農家と代替農地をマッチングするため、利用可能な農地情報と農家の希望する農地条件をデータベース化し、県・市町と共有。さらに、代替農地の掘り起こしとして耕作放棄地等の状況調査を実施する等、より多くの候補地の情報収集に取り組んでいる。

令和6年1月には「営農継続県・市町村連絡会議」を設置し、マッチング以外の手法による代替農地の確保について検討を行っている。

また、個々の農家のニーズを把握するため、令和6年5月から該当地域の認定農業者や畜産農家等を対象に聞き取り調査を実施。結果を踏まえ、市町や関係団体と連携し対策の検討を進めている。



基盤整備を実施しマッチング契約が成立した
代替農地

有害赤潮による被害の最小化に向けた対策の実施

八代海において、令和3年度から4年連続で有害赤潮が発生し、ブリやカンパチなど養殖魚のへい死が確認され、その被害額は合計50億円を超えている。

養殖業者は、県・市町・漁協と連携して、SNSを活用して赤潮の発生状況などの情報を関係者と共有するとともに、赤潮発生時には速やかな赤潮駆除剤の散布や餌止めの実施などに努めている。

また、県ではAIを活用した赤潮発生予察技術の開発を始め、被害の少ない漁場への移転や避難漁場の確保、足し網や大型生簀の導入などについて支援し、赤潮による被害の最小化を図っていく。



養殖業者による赤潮プランクトン検鏡の状況